

おいしさと健康

Glico

第103期

中間報告書

[平成19年4月1日▶平成19年9月30日]



江崎グリコ株式会社



Glicoの理念

おいしさと健康

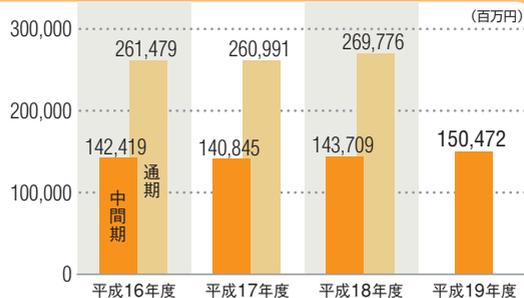
おいしさの感動を、健康の喜びを、
生命の輝きを

Glicoは、ハート・ヘルス・ライフのフィールドで
いきいきとした生活づくりに貢献します。

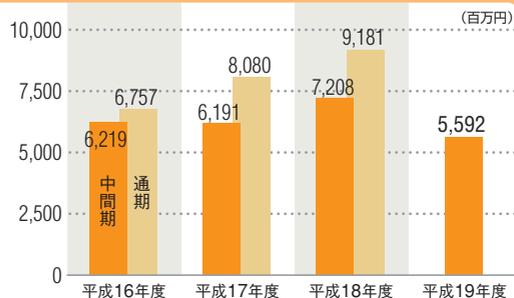
財務ハイライト

連結

売上高



経常利益



当期純利益



**1株当たり
中間純利益**



C O N T E N T S

株主の皆様へ	2
部門別の概況(連結)	3
連結決算の状況	5
単独決算の状況	8
安全・安心への取り組み	9
トピックス 新製品のご紹介	11
ニュース	15
会社の概要	16
役員	16
株式の状況	17
株主メモ	18

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。当社の第103期中間報告書をお届けするにあたり、ひとことごあいさつ申し上げます。

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業業績の好調さによる設備投資の増加や個人消費も持ち直しとなり、緩やかな回復基調を辿りました。しかし、一方では、原油価格高騰の長期化やバイオ燃料の利用拡大に伴う農産物価格の持続的な高騰等、食品業界にとっては非常に厳しい状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは「グリコグループ行動規範」に基づき、信頼される企業であり続けることを事業展開の基本としながら、主力品の強化、新製品・系列品の発売、自動販売機や職場専用ボックスでの販売等による販売拠点の拡大や各々の流通形態に適合した販売対策を積極的に展開いたしました。

その結果、売上面では、食品部門と畜産加工品部門は前中間連結会計期間を下回りましたが、菓子、冷菓、牛乳・乳製品部門が前中間連結会計期間を上回ったため、当中間連結会計期間の売上高は150,472百万円となり、前中間連結会計期間（143,709百万円）に比べ4.7%の増収となりました。

取締役社長

北崎勝久



利益面につきましては、原材料価格の上昇の影響により原価率がアップしました。さらに積極的な販売促進活動を行ったことにより販売促進費や広告費が増加いたしました。その結果、営業利益は4,723百万円と前中間連結会計期間（6,175百万円）に比べ1,451百万円の減益となり、経常利益は5,592百万円と前中間連結会計期間（7,208百万円）に比べ1,615百万円の減益となりました。

また、当中間連結会計期間は投資有価証券売却益等を特別利益として計上し、減損損失等を特別損失として計上しました。その結果、中間純利益は2,832百万円となり、前中間連結会計期間（4,159百万円）に比べ1,326百万円の減益となりました。

なお、中間配当金は、当初予定通り1株当たり5円といたしました。

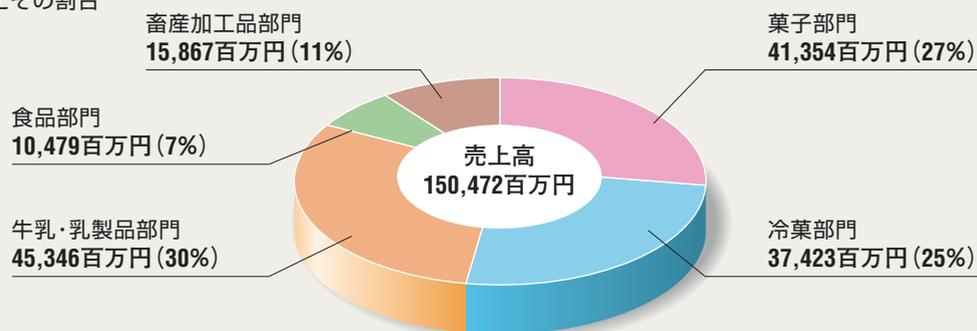
下半期につきましても、国内景気の先行きは不透明であり、当社を取り巻く販売競争はますます激しくなるものと予想されますが、全社を挙げて業績向上をはかり、株主の皆様のご期待にこたえる所存でございます。

今後とも、株主の皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

部門別の概況 連結

部門別売上高とその割合



菓子部門

41,354百万円

前年同期比8.7%の増収



国内では、主力品の「ポッキーグループ」、「ブリッツグループ」、「カプリコグループ」が前中間連結会計期間を上回りました。一方、“メンタルバランスチョコレートGABA”や口中ケアタブレット“BREO”は前中間連結会計期間を下回りました。さらに海外では、タイ、中国が当中間連結会計期間も順調に売上を伸ばしました。その結果、当中間連結会計期間の売上高は41,354百万円となり、前中間連結会計期間（38,027百万円）に比べ8.7%の増収となりました。

冷蔵部門

37,423百万円

前年同期比6.8%の増収



主力品の“バピコ”や“ジャイアントコーン”が好調に推移し、“ミニセレ”、“カロリーコントロールアイス”等も増収となり、卸売販売子会社も増収となりました。一方、新製品の“デフ”は苦戦いたしました。その結果、当中間連結会計期間の売上高は37,423百万円となり、前中間連結会計期間（35,041百万円）に比べ6.8%の増収となりました。

牛乳・ 乳製品部門

45,346百万円

前年同期比3.4%の増収



“カフェオーレ”等の乳飲料や“ハッピープッチンプリン”、“とろーりクリームonプリン”等が順調でした。一方、ヨーグルト製品は競争の激化等により前中間連結会計期間に比べ減収となりました。その結果、当中間連結会計期間の売上高は45,346百万円となり、前中間連結会計期間（43,869百万円）に比べ3.4%の増収となりました。

食品部門

10,479百万円

前年同期比2.4%の減収



“カレー職人”等のレトルトカレーは順調で、新製品の“黒はるさめスープ”も好評でしたが、主力製品である“2段熟カレー”や“DONBURI亭”が厳しい競合の中で、苦戦となりました。その結果、当中間連結会計期間の売上高は10,479百万円となり、前中間連結会計期間（10,740百万円）に比べ2.4%の減収となりました。

畜産加工品 部門

15,867百万円

前年同期比1.0%の減収



ハム、ベーコン関係は前中間連結会計期間を上回りましたが、ソーセージやハンバーグ等が苦戦いたしました。一方、食品原料は澱粉が順調で前中間連結会計期間を上回りました。その結果、当中間連結会計期間の売上高は15,867百万円となり、前中間連結会計期間（16,029百万円）に比べ1.0%の減収となりました。

連結決算の状況

■ 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間末 (平成18年9月30日)	当中間連結会計期間末 (平成19年9月30日)	前中間連結会計期間末 (平成18年9月30日)	当中間連結会計期間末 (平成19年9月30日)
[資産の部]				
I 流動資産	89,701	92,586		
現金及び預金	13,998	16,254		
受取手形及び売掛金	35,955	39,118		
有価証券	10,543	11,329		
たな卸資産	17,031	17,842		
前渡金	198	306		
前払費用	208	304		
短期貸付金	607	465		
繰延税金資産	3,236	2,830		
その他	8,184	4,313		
貸倒引当金	△264	△180		
II 固定資産	133,807	132,437		
(有形固定資産)	68,475	66,533		
建物及び構築物	23,404	21,950		
機械装置及び運搬具	25,327	24,835		
工具器具備品	3,945	3,699		
土地	15,046	14,715		
建設仮勘定	752	1,332		
(無形固定資産)	1,900	1,299		
(投資その他の資産)	63,431	64,605		
投資有価証券	51,602	51,439		
長期貸付金	928	1,018		
長期前払費用	207	280		
繰延税金資産	5,005	5,491		
その他	6,697	7,448		
貸倒引当金	△1,009	△1,073		
資産合計	223,508	225,023		
[負債の部]				
I 流動負債			77,132	79,885
支払手形及び買掛金			35,846	38,522
短期借入金			9,040	7,854
未払費用			24,643	25,220
未払法人税等			1,773	1,912
その他			5,828	6,375
II 固定負債			19,485	18,079
長期借入金			18	6
退職給付引当金			14,907	13,893
役員退職慰労引当金			983	1,017
負ののれん			477	—
その他			3,098	3,162
負債合計			96,618	97,965
[純資産の部]				
I 株主資本			122,072	122,748
資本金			7,773	7,773
資本剰余金			7,417	7,419
利益剰余金			117,145	118,002
自己株式			△10,264	△10,447
II 評価・換算差額等			3,640	2,477
その他有価証券評価差額金			4,937	3,195
繰延ヘッジ損益			△972	△865
為替換算調整勘定			△325	148
III 少数株主持分			1,177	1,832
純資産合計			126,890	127,058
負債純資産合計			223,508	225,023

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (18.4.1～18.9.30)	当中間連結会計期間 (19.4.1～19.9.30)
I 売上高	143,709	150,472
II 売上原価	82,663	87,884
売上総利益	61,046	62,587
III 販売費及び一般管理費	54,870	57,864
営業利益	6,175	4,723
IV 営業外収益	1,436	1,548
（受取利息及び配当金）	680	633
（その他）	756	914
V 営業外費用	403	678
（支払利息）	59	89
（その他）	344	589
経常利益	7,208	5,592
VI 特別利益	—	311
（投資有価証券売却益）	—	224
（貸倒引当金戻入益）	—	85
（その他）	—	1
VII 特別損失	309	342
（減損損失）	9	165
（投資有価証券評価損）	272	141
（その他）	27	35
税金等調整前中間純利益	6,898	5,561
法人税、住民税及び事業税	1,959	2,238
法人税等調整額	630	275
少数株主利益	149	215
中間純利益	4,159	2,832

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (18.4.1～18.9.30)	当中間連結会計期間 (19.4.1～19.9.30)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	6,898	5,561
減価償却費	4,643	4,840
減損損失	9	165
負ののれん償却額	△238	△238
退職給付引当金の増減額	△395	△570
役員退職慰労引当金の増減額	△70	△15
役員賞与引当金の増減額	—	△93
貸倒引当金の増減額	△147	△68
受取利息及び受取配当金	△680	△633
支払利息	59	89
為替差損益	△4	7
有形固定資産除却損	154	195
売上債権の増減額	△8,369	△7,543
たな卸資産の増減額	764	△1,443
仕入債務の増減額	7,742	7,865
その他	5,467	3,131
小計	15,834	11,247
法人税等の支払額	△1,923	△1,269
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,910	9,978
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△381	△240
定期預金の払戻による収入	481	836
有価証券の売却等による収入	1,208	300
投資有価証券の取得による支出	△2,428	△4,356
投資有価証券の売却等による収入	189	2,504
有形固定資産の取得による支出	△4,373	△3,753
有形固定資産の売却による収入	8	18
貸付けによる支出	△308	△395
貸付金の回収による収入	240	407
利息及び配当金の受取額	714	727
その他	219	△171
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,428	△4,122
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額	△2,507	415
長期借入金の返済による支出	△31	△7
利息及び配当金の支払額	△706	△1,379
少数株主への配当金の支払額	△18	△14
自己株式の取得による支出	△66	△78
その他	2	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,328	△1,062
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	26	135
V 現金及び現金同等物の増減額	6,181	4,928
VI 現金及び現金同等物の期首残高	20,786	22,557
VII 新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	—	280
VIII 現金及び現金同等物の中間期末残高	26,967	27,766

連結決算の状況

■ 中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間（自平成19年4月1日 至平成19年9月30日）

（単位：百万円）

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 余 本 金	利 益 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 計
平成19年3月31日残高	7,773	7,419	116,463	△10,371	121,285
中間連結会計期間中の変動額					
剰余金の配当			△1,291		△1,291
中間純利益			2,832		2,832
自己株式の取得				△78	△78
自己株式の処分		0		1	2
連結子会社増加に伴う 剰余金減少			△1		△1
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額（純額）					
中間連結会計期間中の変動額合計	—	0	1,539	△76	1,463
平成19年9月30日残高	7,773	7,419	118,002	△10,447	122,748

	評 価 ・ 換 算 差 額 等				少 数 株 主 持 分	純 資 産 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	為 替 換 算 調 整 勘 定	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		
平成19年3月31日残高	5,937	△907	△145	4,885	1,433	127,604
中間連結会計期間中の変動額						
剰余金の配当						△1,291
中間純利益						2,832
自己株式の取得						△78
自己株式の処分						2
連結子会社増加に伴う 剰余金減少						△1
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額（純額）	△2,742	41	293	△2,408	398	△2,009
中間連結会計期間中の変動額合計	△2,742	41	293	△2,408	398	△546
平成19年9月30日残高	3,195	△865	148	2,477	1,832	127,058

単独決算の状況

要約中間貸借対照表

(単位:百万円)

	前中間会計期間末 (平成18年9月30日)	当中間会計期間末 (平成19年9月30日)
【資産の部】		
I 流動資産	58,413	58,909
II 固定資産	113,495	111,130
(有形固定資産)	32,109	30,406
(無形固定資産)	1,173	806
(投資その他の資産)	80,212	79,917
資産合計	171,909	170,040
【負債の部】		
I 流動負債	67,349	68,959
II 固定負債	9,401	8,619
負債合計	76,750	77,578
【純資産の部】		
I 株主資本	91,323	90,206
II 評価・換算差額等	3,834	2,255
純資産合計	95,158	92,461
負債純資産合計	171,909	170,040

要約中間損益計算書

(単位:百万円)

	前中間会計期間 (18.4.1~18.9.30)	当中間会計期間 (19.4.1~19.9.30)
I 売上高	72,971	75,091
II 売上原価	37,496	39,795
売上総利益	35,475	35,295
III 販売費及び一般管理費	32,868	34,687
営業利益	2,606	607
IV 営業外収益	2,417	2,877
V 営業外費用	251	497
経常利益	4,772	2,987
VI 特別利益	—	311
VII 特別損失	618	524
税引前中間純利益	4,153	2,774
法人税、住民税及び事業税	592	642
法人税等調整額	687	181
中間純利益	2,872	1,949

要約中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	株 主 資 本									評価・換算差額等			純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計							
平成19年3月31日残高	7,773	7,413	5	7,419	1,943	80,028	2,830	84,802	△10,371	89,624	5,820	△907	4,913	94,537
中間会計期間中の変動額														
剰余金の配当							△1,291	△1,291		△1,291				△1,291
中間純利益							1,949	1,949		1,949				1,949
自己株式の取得									△78	△78				△78
自己株式の処分			0	0					1	2				2
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)											△2,699	41	△2,658	△2,658
中間会計期間中の変動額合計	—	—	0	0	—	—	658	658	△76	582	△2,699	41	△2,658	△2,076
平成19年9月30日残高	7,773	7,413	6	7,419	1,943	80,028	3,488	85,460	△10,447	90,206	3,120	△865	2,255	92,461

安全・安心への取り組み

私たちは、お客様の安全・安心を最優先にして、すべての製品とサービスを提供します。

- 1 私たちは、お客様の健康に直接関わる食品を扱っています。食品に関連するすべての法規を遵守します。
- 2 製品の安全性確保のため、計画、実行、チェックの機能が有効に働く体制・運用方法を絶えず追求します。また、その技術開発にも取り組みます。
- 3 お客様のお申し出には、迅速に、かつ誠意をもって対応します。
- 4 製品の安全性に問題が生じた場合、原因追求・再発防止策を徹底して行います。

製品設計から販売段階までの品質保証

江崎グリコでは、品質管理基準に基づく品質マネジメント活動を継続することで品質保証を徹底しています。製品の設計段階から販売段階に至るまで、品質総括責任者が品質保証に関わるすべてを監督します。

設計段階の品質保証例

自社分析技術の拡充

安全性を科学的に証明するために、残留農薬や残留動物用医薬品、アレルギー物質、遺伝子組換え農産物、違法合成香料などの食品添加物、カビ毒などを自社で分析。設備、体制を拡充し、さらに分析技術の開発研究も行っています。



設計段階

1 安全性の確認

- ・新規原料採用業者の監査
- ・使用時の安全性のチェック
- ・残留農薬に関する安全性の確認
- ・不実証広告規制適合の確認

2 法適合性の確認

3 品質の確認

- ・当社の研究所で輸送テスト、保存テスト等を実施

製造段階

1 全数保証できるラインの構築

- ・高速印字検査装置導入
- ・異物混入の排除
- ・原材料の履歴管理徹底

2 安全な原料の使用

3 製造品質でトラブル、クレームを出さない体制作り

4 人材の育成



製造段階の
品質保証例

高速印字
検査装置導入

高速印字検査装置による全数チェックを実施し、印字の全数保証体制を構築しています。

製造段階の
品質保証例

異物混入の排除

異物混入ゼロを目指し、①異物を持ち込まない ②異物を混入させない ③異物の混入した製品の排除を徹底する体制を構築しています。

製造段階の
品質保証例

原材料の
履歴管理徹底

バーコードを利用したトレーサビリティシステムを導入展開。冷蔵4工場、食品1工場へ導入完了しました。菓子工場へも導入展開中です。

販売段階

1 予防型の品質保証へ

・製品リスクマネジメント会議を通じて予防型の品質保証体制を構築しています

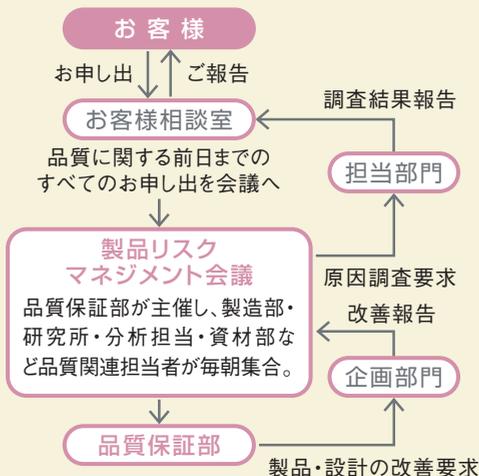
2 お客様の声を
品質保証に活かす



販売段階の
品質保証例

お客様の声を
品質管理に活かす

毎朝の製品リスクマネジメント会議でお客様のお申し出を検証。得られた知見を考察し、工場・企画部門・研究部門にフィードバックすることにより、クレームの減少、予防型の品質保証を目指します。



着実に減少する
製品への
お客様クレーム

これらの取り組みを通じ、製品品質に関するお客様からのお申し出は毎年着実に減少しています。(出荷製品数あたりのお客様からの品質クレーム発生率)

品質クレーム発生率推移

(02/3を100とした指数) 江崎グリコ全社



菓子

菓子事業本部

グリコから“大人のための本格チョコレート”のご提案。

【アーモンドプレミオ】

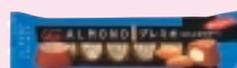
【アーモンドプレミオ】〈ほろにがビター〉

【バンホーテン【ディアカカオ】】〈クリーミー〉〈ビタースイート〉

質を楽しむアーモンドチョコレート『アーモンドプレミオ』と、カカオの華やかな香りを楽しむチョコレート『バンホーテン【ディアカカオ】』。この2ブランドを中心に「オトナグリコ」というコンセプトのもと、大人のための本格的な上質チョコレート商品群を提案していきます。



アーモンドプレミオ



アーモンドプレミオ
〈ほろにがビター〉



バンホーテン【ディアカカオ】
〈クリーミー〉



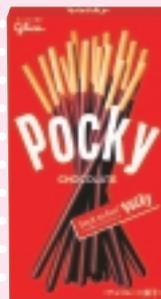
バンホーテン【ディアカカオ】
〈ビタースイート〉

“ビター!クリスピー!香ばしい!” 新生メンズポッキー登場!

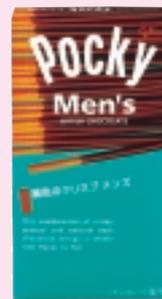
【ポッキーチョコレート】

【メンズポッキー】【ポッキー極細】

この秋メンズポッキーが新製法でこんがりクリスピーに、さらにおいしくなりました。ポッキーチョコレート、ポッキー極細とあわせて、これからもお客様に新しい“Fun”な情報を発信し続けるとともに、スティックスナックカテゴリーをリードしていきます。



ポッキーチョコレート



メンズポッキー



ポッキー〈極細〉

和の素材、製法にこだわった プレミアムアイスクリーム。

【和ごころ】

〈濃抹茶〉〈絹練りバニラ〉〈抹茶黒みつ〉
〈黒みつ〉〈綾紫いも〉〈栗かのこ〉

この秋『和ごころ』が内容、パッケージ共に一新。素材の産地や品種にこだわり、和の伝統技法“かくし塩”で「濃厚なのに後口の良い上品な甘さ」に仕上げました。新しい味わいで、プレミアムアイス市場を活性化します。

組み合わせのおいしさを追求した、 濃厚でリッチな大人のクッキーサンド。

【プレミアージュ】

〈バニラ&生チョコ〉

クッキーとアイスとソースの組み合わせのおいしさにこだわった、大人のクッキーサンド『プレミアージュ』を発売しました。乳脂肪分12%のプレミアムアイスでつくった深い味わいです。サンドアイス市場にワンランク上のおいしさを提案します。



食品

食品事業本部

業界初。“ひじきを春雨に
練り込んだ”カップ入りスープ。

【黒はるさめスープ】

〈うま塩磯仕上げ〉〈黒ごま担々麺風味〉

『黒はるさめスープ』は、海藻類で人気のあるひじきを微粉碎して春雨に練り込んだ、今までにない見た目にも新しい黒い春雨のスープです。拡大するカップ入りスープ市場に、黒色食品を使った新メニューとして提案します。



牛乳・乳製品

グリコ乳業株式会社

シャキシャキりんごがおいしい。

【朝食りんごヨーグルト】

りんご果肉入りフルーツヨーグルト『朝食りんごヨーグルト』がリニューアルいたしました。シャキシャキとしたりんごの食感そのままに、甘さを抑えてより一層すっきりさわやかな風味になりました。特に忙しい朝にお勧めします。



牛乳・乳製品

グリコ乳業株式会社

高原牧場で搾られた 特選生乳100%使用。

[おいしいカスピ海]

独特のとろみのあるプレーンヨーグルト『おいしいカスピ海』がリニューアルいたしました。原料にこだわり、高原牧場で搾られた特選生乳を100%使用しています。酸味が少なく、クリーミーな味わいをぜひお楽しみください。



畜産加工品等

グリコ栄養食品株式会社

お客様の「ラーメンをもっと 楽しみたい」にお応えします。

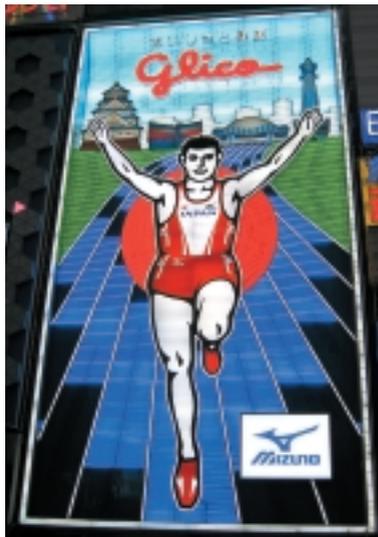
[新麺好亭シリーズ]

多様化する生活者のニーズにスタンダード規格とプレミアム規格をはじめ新商品を加え、新しい麺好亭シリーズに生まれ変わりました。



大阪・道頓堀のグリコのランナーが 陸上・日本代表選手に!

8月25日から9月2日までの間、長居陸上競技場で行われたIAAF世界陸上競技選手権 大阪大会にあわせ、大阪・道頓堀のグリコのランナーが、ミズノ株式会社が製作する陸上・日本代表選手に衣替えし、日本代表選手を応援しました。



次世代認定マークの愛称は“くるみん”です。赤ちゃんを包む“おくるみ”と会社ぐるみ、家族ぐるみ、地域ぐるみといった言葉からの愛称です。

次世代認定マーク 「くるみん」を取得

江崎グリコは2005年4月から「次世代育成支援対策推進法」に基づき、2年間の計画期間内に男性の育児休職の取得、女性の育児休職取得推進、働き方の見直しに関する労働条件整備等の行動計画を策定し取り組んできました。

その結果、大阪労働局から同法13条に基づいた認定通知を受け、次世代認定マーク「くるみん」を取得することができました。

会社の概要

商号 江崎グリコ株式会社
創立年月日 大正11年2月11日
資本金 7,773,681,654円
営業品目 菓子・食料品の製造および売買。飲食店の経営。
従業員数 1,145名
本社所在地 〒555-8502
大阪市西淀川区歌島四丁目6番5号

主な事業所

- 本社
〒555-8502
大阪市西淀川区歌島四丁目6番5号
電話 (06) 6477-8352
- 北海道統括支店
〒003-0807
札幌市白石区菊水7条二丁目7番1号
電話 (011) 812-6311
- 東北統括支店
〒981-0912
仙台市青葉区堤町一丁目1番2号
電話 (022) 717-2821
- 首都圏統括支店
〒108-0023
東京都港区芝浦四丁目16番23号
電話 (03) 3798-0717
- 中部統括支店
〒461-0022
名古屋市東区東大曽根町22番28号
電話 (052) 919-0714
- 近畿統括支店
〒555-8502
大阪市西淀川区歌島四丁目6番5号
電話 (06) 6477-8470
- 中・四国統括支店
〒733-0003
広島市西区三篠町三丁目6番28号
電話 (082) 230-4111
- 九州統括支店
〒812-0013
福岡市博多区博多駅東三丁目13番28号
電話 (092) 474-0331

主な関係会社

北海道グリコ株式会社
仙台グリコ株式会社
茨城グリコ株式会社
グリコ千葉アイスクリーム株式会社
東京グリコ株式会社
武生グリコ株式会社
三重グリコ株式会社
関西グリコ株式会社
神戸グリコ株式会社
グリコ兵庫アイスクリーム株式会社
鳥取グリコ株式会社
九州グリコ株式会社
江栄情報システム株式会社
株式会社グリコ物流サービス
東北フローズン株式会社
関西フローズン株式会社
THAI GLICO CO., LTD.
GENERALE BISCUIT GLICO FRANCE S.A.
上海江崎格力高食品有限公司
上海江崎格力高南奉食品有限公司
グリコ乳業株式会社
グリコ栄養食品株式会社
アイクレオ株式会社

役員

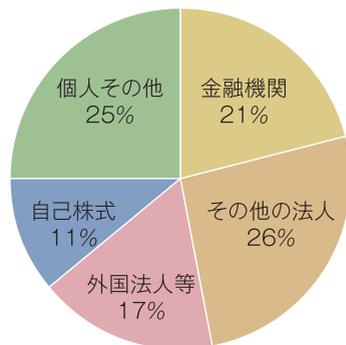
代表取締役社長	江崎 勝久	取締役	玄 洋二郎	監査役	穴穂 忠男
常務取締役	大川 焔 勝也	取締役	門 奈 俊夫	監査役	玉井 英二
常務取締役	原 光 伴	取締役	金子 春義	監査役	太智 幸夫
常務取締役	吉田 安 矩	取締役	森井 健一	監査役	倉持 治夫
常務取締役	深川 修 二	取締役	芝池 正明	監査役	枅田 圭兒
常務取締役	中川 宗 和	取締役	村上 泰民		
取締役	江崎 正 道	取締役	栗木 隆		

(注) 監査役のうち、玉井英二、倉持治夫及び枅田圭兒の3氏は、社外監査役であります。

株式の状況

会社が発行する株式の総数	470,000,000株
発行済株式総数	144,860,138株
株主数	16,114名

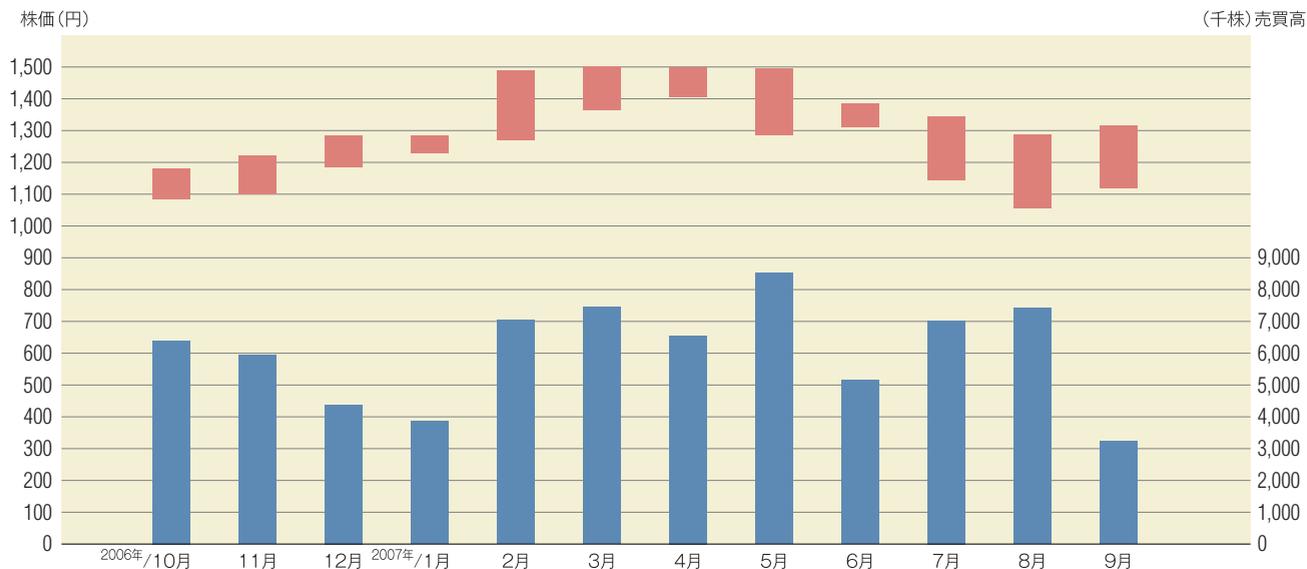
所有者別株式数比率



大株主

氏名又は名称	持株数(千株)
スティールパートナーズジャパンストラテジックファンド(オフショア)エルビー	21,750
掬泉商事株式会社	8,263
江崎正道	7,240
大同生命保険株式会社	7,000
日清食品株式会社	7,000
佐賀県経済農業協同組合連合会	5,787
大日本印刷株式会社	3,197
日本生命保険相互会社	2,342
三井住友海上火災保険株式会社	2,112
大正製薬株式会社	2,020

株価および株式売買高の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社証券代行部

郵便の場合

〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先

住所変更等用紙のご請求…………… ☎0120-175-417
買増請求、その他のご照会…………… ☎0120-176-417

インターネット ホームページURL

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

同 取 次 所 住友信託銀行株式会社全国各支店

公 告 の 方 法 当社のホームページに掲載する。
(<http://www.glico.co.jp>)

上場証券取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所

株主様 ご優待

1,000株以上ご所有の株主様に、つぎの要領で、当社製品の詰め合わせを贈呈させていただいております。

- 贈呈時期 6月末頃と12月中旬頃にお送りいたします。
- 贈呈基準 3月31日現在および9月30日現在の株主様へ

1,000~
1,999株



市価 約800円相当額製品

2,000~
9,999株



市価 約1,600円相当額製品

10,000株
以上



市価 約3,000円相当額製品

※写真は、詰め合わせ商品例